

令和5年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立仲六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成 果

- ・ 用具を操作する運動遊びや、ボールゲームを通して、ボールを投げるフォームが整ったり、飛距離が伸びたりした。
- ・ 課題解決に向けてペアやグループで話し合い作戦を立てたり、声をかけ合ったり、協力することができた。(5年)
- ・ 課題を自己決定しながら、学習をマネジメントする力がとても伸長した。チームや他者の課題を解決しようとする協働的な学びも十分定着した。(6年)

(2) 課 題

- ・ 学校全体で泳力が低下している。
- ・ 運動の経験が乏しい児童が多く、基本的な動きや技能が獲得できていない。
- ・ 友達との関わりの中で課題を見付けたり、解決したりするための活動が不十分である。
- ・ 自身の課題を認識したり、課題解決の方法を考えたりする力が弱い。
- ・ ゴールイメージをもてず、活動だけで終わってしまう児童がいた。(5年)
- ・ 体育は他教科に比べ、答えを与えずにいる学習になっている。発問と評価の中で、3つの資質と能力が伸長する単元学習の工夫が必要である。(6年)

2 授業改善のポイント

・ 低学年

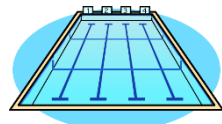


知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 年 ・ 一人一人の運動量を十分確保する。また、体のバランスをとる動きや用具を操作する動きなど、多様な動きをつくる運動遊びを計画的に実施し、基礎基本の定着と体力の向上を図る。	1 年 ・ 友達の良い動きを見つけられるように、場の設定を工夫するとともに、良い動きのポイントを確認するようにする。 ・ 楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選べるようにする。	1 年 ・ 体を動かす楽しさを味わい、意欲的に活動できるように、めあてをしっかりとめさせる。また、安全に楽しく活動できるように正しい運動の仕方や規則を守ることの大切さを繰り返し指導する。
2 年 ・ 基本的な動きを身に付け、体力を養う。特に、投力や握力、跳力や腹筋の弱い児童やボールの扱いに慣れていない児童が多いので、スキルアップタイムを設定し、予備的な動きを強化する運動遊びを継続して取り入れ、楽しみながら体力や技能が伸びるようにする。また、運動量を十分に確保する。 	2 年 ・ めあてをもって運動に取り組むことができるようにワークシートなども活用して、成果を自己評価できるようにする。 ・ 運動を楽しむための仕方や競争の規則を実態に合わせて工夫する。 ・ 遊び方を選んだり、友達の良い動きを見つけたりできるように、場の設定やグループを工夫する。	2 年 ・ 関心をもって取り組めるような運動の場の設定(用具・場所等)やグループを工夫する。 ・ 多様な運動例を紹介し、休み時間にも遊びながら取り組めるようにする。 ・ 準備運動の中にいろいろな動きを取り入れ、継続的に行わせることで、できるようになった喜びを意欲につなげる。

・中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3年 ・用具の正しい使い方を理解し、適切に技能の習熟を図る。 ・1時間の授業の中で、十分に一人一人が運動量を確保できるように活動の仕方や場の設定を工夫する。  4年 ・球技や走る運動、水泳や器械運動など様々な運動をバランスよく行い、技術が高められるようにする。1時間の授業の中で、一人一人が十分に運動量を確保することができるように活動の仕方や場の設定を工夫する。	3年 ・学習カードを活用し、一人一人がめあてをもって学習に取り組み、課題解決の仕方や学びの成果の振り返りができるようにする。 ・グループ学習を効果的に取り入れ、教え合いや学び合い、励まし合いができる活動を設定する。 4年 ・学習カードを活用し、めあてを立て、振り返りを行い、課題解決の仕方や学びの成果を次に生かすことができるようにする。 ・グループ学習を効果的に取り入れ、教え合いや学び合い、励まし合いができる活動を設定する。	3年 ・スモールステップの手立تهを取ったり、誰でも運動に熱中して取り組めるよう、ルールを工夫する。 ・運動の場の設定を工夫したり主運動につながる補助運動を取り入れたりすることで、できる喜びを味わわせていく。 4年 ・単元の最終活動にリーグ戦などを設定し、個人やグループで意欲をもって学習できるようにする。 ・授業の流れを統一し、子どもたちが安心して、意欲的に学習できるようにする。

・高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5年 ・運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けられるよう、主運動につながる補助運動を取り入れ、主運動にスムーズに取り組めるようにする。 6年 ・主運動につながる補助運動や感覚づくりの時間を取り入れ、主運動が高まっていくようにする。 ・運動の技能を高めるためにも、1時間内の児童の運動量を確保する。 ・どの領域でも、運動の構造を教師がおさえて、資料やワークシートを工夫したり提示したりしながら、知識が高まるようにする。	5年 ・グループやペアで活動する機会を設定し、自己やグループの課題解決のために活動を工夫したり、考えを伝えたりする時間を設ける。 6年 ・協働的な時間を取り入れ、友達の良い動きや運動の工夫に気付いたり、それを生かしたりして運動に取り組めるようにする。 ・学習カードを活用し、一人一人がめあてをもち、振り返りをするとともに、教師が評価を加えながら、学習に自己調整が図れるようにする。 ・ICTを取り入れ、自分の動きやチームの課題を視覚化し、課題や成果についてのメタ認知化を図る。 	5年 ・運動の場や運動場面を工夫して、仲間の考えや取り組みを認めたり、最後まで粘り強く課題に対して取り組んだりできるようにする。 6年 ・今もっている力で学習が楽しめるよう単元計画を工夫し、第1時では「やってみたい」「できるようになりたい」という意欲と見通しがもてるようにする。 ・体づくりや器械運動などの領域については、学習計画を自分で立て、毎時間ごとに振り返りながら、学習を自身でマネジメントできるようにする。 ・単元の導入や序盤では単元のゴールイメージを共有し、何を学びどんな力を付ける学習か児童と合意形成を図る。